

単元【作文】 テーマカードをつなげよう

1. はじめに

構成メモやカードを使った方法は中学校でもよく用いられます。しかし不登校、あるいは軽度発達障害のある生徒に対してはもう少しわかりやすい支援が必要です。こちらが手を入れながらも、本人が書きあげたという達成感を持たせることに留意しました。

2. 方法

①テーマの細分化

「高校生活に望むもの」

「中学校でのこと」

「高校でのこと」

「決めのことば」

書く材料をたくさん引き出すため、指導者がいくつかテーマを分けて提示します。

②インタビュー

「中学校でのこと」

- ・ 友達との出会い
- ・ 先生との出会い
- ・ 部活動での自慢は？
- ・ 行事での思い出
- ・ 得意だった科目は？
- ・ 辛かったことは？
- ・ よかったことは？
- ・ 頑張ったことは？
- ・ 自分の良い（好きな）ところは？
- ・ 自分の良くない（嫌いな）ところは？

「高校でのこと」

- ・ 楽しみにしていることは？
- ・ 部活動はどうする？
- ・ 将来どんなことをしたい？
- ・ 家の人とどんな話をする？
- ・ 自信をもっていることは？
- ・ 心配なことは？

不登校、軽度発達障害がある生徒は、高学年ほど学校生活でのマイナスの記憶が強く残りやすいようです。そのため、答えられない質問や無関心、マイナス思考の答えもたくさんあると思います。

ここでは生徒の思いや経験に対する情報をなるべくたくさん引き出し、すべて肯定・共感する態度で臨むようにします。聞きながら指導者がメモを取り、後で一緒に整理しよう！と確認してから実施します。

生徒が答えにくそうにしているときは、こちらで「どんな思いか」などについて3つくらいの選択肢を提供し、どれが一番近いかを選ばせると生徒の言葉が出てきやす

くなります。また、「何もない」と答える生徒に対しては、「その中でも一番マシなのは？」や、「〇〇<具体的な事柄>はどう？」と、Yes/Noで答えられるようにするとそこから話を広げられますね。

③メモを分類してカードに

例えば「中学校でのこと」の場合、

得意ではないが、体育は苦手なわりに記録に挑戦したりすることができた。	途中から友達関係で、学校に行けなくなったが、自分で勉強を続けている。	話したりするよりは、ものを作ったりするのが好きだし、手先は器用なほうだ。	しんどかったけど、3年間部活を自分なりにやり遂げた。	学校に行けなくなっただけから、規則正しい生活ができていない。
------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------	----------------------------	--------------------------------

生徒の言葉にできるだけ忠実にカードを作るようにします。どういう言葉を使えばよいのか分からなかったり、迷っているときはこちらから言葉を出してまとめるようにします。

テーマに沿わないと感じるものも出てきますが、どこで使えるか分からないので大事なおきます。

普通はメモ程度に短い言葉でカードを作りますが、生徒によっては短い言葉から文章を作り出せない、短い言葉に不安をもつ場合もあるので、あとでつなぎ合わせやすいように長い文でカードを作ります。

☆文字は指導者が書いて時間短縮、負担軽減。

自分の本当の思いに反しているものはどんどん修正を加えていきます。

④カードの取捨選択、順序決め

求められている字数から、指導者が細分化したテーマごとに書く分量を決め、いくつくらいの話が書けるか予め決めておきます。そして、「中学生のことからは、○つのカードを選んでね」と生徒に選ばせます。（意外と印象が強いものの順に選んでくれます）

選んだカードをどういう順番で書くか並べさせ、大まかに「こんな流れになるよー」と、指導者が口頭でカードの内容をつなげて言うとイメージしやすくなるようです。

⑤下書き

カードにはある程度の長さの文が書かれています。つなぎ言葉や書き出しに詰まることが多いようです。そこは惜しまず教えます。「カードのまんまだけじゃなく、思いついたことがあれば自由に言葉を足してね」と言いながら書かせると、印象の強いものほどふくらませて書くこともできます。

表記や漢字の間違い、原稿用紙の使い方等はさておき、どんどん書かせます。細分化したテーマを一区切りとして見直し、訂正をすると時間的にも集中できますね。

⑥清書

3. おわりに

作文嫌いは「何を書けばよいかわからない」「どう書けばよいかわからない」が一番の原因だと思っています。だから、書くことがたくさんあって、その中から書ける、書きたいものを選ぶという形にするのが生徒には取っつきやすいと思います。

カードを書くまでは指導者が先導し、いざ原稿用紙に書くときは、「言われながら書く」という形ではなく「ひとりで黙々と書く」という形になります。だから、生徒は「自分で書いた感」「できた感」が持てます。

この方法でのポイントは、「つなげれば書ける」程度にカードの文を作ってやることです。また、インタビュー後、整理したり大まかにカードに書いておくことは指導の時間外でもできるので、時間を有効に使って進められます。